

## 培花女子大学調査報告

### 日時

2008-02-21

### 調査大学の概要

培花女子大学は韓国ソウル市の中心部に位置する2・3年制の女子専門大学である。12の学科があり、その1つに日本語通訳翻訳科がある。

### 御回答者氏名等（書面解答に補足）

尹 恵淑 日語通訳翻訳科 副教授

1. 貴大学の日本語日本関係学科のカリキュラムの概要を教えてください。

学科教養と専攻選択に分けている。教養は英語と中国語など外国語のほかキリスト教の理解、現代人のマナー、レクリエーションなどがある。

専攻は日本語の講読、文法、漢字、通訳、翻訳の練習などがある。

2. カリキュラムの特色はどのような点だとお考えでしょうか。

日本語と日本文化の習得と理解を通して韓日間の政治、経済、社会、文化、観光などの各分野で日本語の専門職業人の養成を教育の目標にしている。

3. 日本語語学科目以外の日本関係科目について、専門科目としての位置付けとともに、日本を専門とする学生の共通の教養的な科目として、どのように運営しているか教えてください。

日本社会と文化、日本語ワードプロセッサー、日本語セミナーなどがあり、カリキュラムの特色に合わせた教育の目標で行っている。

4. 日本語および日本を専門としない学生への日本に関する科目の提供は行われていますか。行われているとすれば、どのように行われているか教えてください。

教養として週1回2時間ぐらい日本語の授業がある

5. 日本語および日本に関する科目を専攻する学生にとって、日本に関する基本的な教養とはどのようなものとお考えですか。必ずしも現実に実現している範囲に縛られずにお考えをお聞かせください。

学生によって違うが、たいてい日本語科を目指している学生は日本に関心があり、日本に対して好意的だと言える。教養の面はそれがきちんと反映しているとは言えない。

6. 貴大学の学生さんが日本語や日本に関する科目を専攻しようとする動機はどのようなものとお考えですか。どのような動機から学生が日本について関心を持つとお考えですか。

隣の国であるだけに小さい頃からアニメなどで自然に接する機会が多かったためだと考えられる。

7. 日本に関する科目を運営する上で苦労する点はどのような点でしょうか。例えば、テキストや資料、生の情報など、どのような点からでもかまいません。

以前は日本語の会話の時間を韓国人が担当するとか、日本人の先生がいても非常勤で勤務するなどの時期があったが、現在は常勤の日本人の先生が何人もいて指導してくれるからその分学生たちは恵まれている。ただテキストなども豊富には出ているが、その分量が多すぎるものがほとんどで、こなしきれないという問題点がある。

8. 日本の大学との教育上の連携を想定した場合、どのような可能性が考えられますか。

お互いの訪問と交流。特に現地での日本語の研修の機会は、学生たちの教育効果の上で絶大だと考える。

9. 日本に留学する学生に対して、日本の大学でどのような教育が行われることを期待されますか。あるいは、学生がどのようなことを学んで帰ることを期待されますか。

日本語の習得はもちろん、日本という国自体に関する幅広い理解と知識を身につけて帰って来て欲しい。

10. その他

(村尾誠一)